

古事記から学ぶ その13  
神武天皇のあとに続く天皇は……

神倭伊波礼毘古命(かむやまといはれびこのみこと)つまり神武天皇と比売多多良伊須氣余理比売(ひめたたらいすけよりひめ)の間に生まれた三人の御子の内、第三子の神沼河耳命(かむぬなかわみのみこと)が、次の綏靖(すいせい)天皇になった。古事記には、神武天皇を起点とする歴代天皇の系図が示されている。文章で示されているので、最終ページに「系図」としてまとめてみた。

<1> 綏靖天皇

二代目の綏靖天皇は、葛城(かづらぎ)の高岡に宮殿を構えて天下を治めた。この天皇は、師木の県主の先祖である。奈良盆地の中東部一帯を「師木(しき:志貴)と言っていた。

●河俣毘売(かわまたびめ)を妻として、●師木津日子玉手見命(しきつひこたまでみのみこと)が生まれた。この天皇の陵は、衝田(つきだ)の岡にある。

宮殿があったと書かれている場所は、近鉄御所駅の南西、葛城山の東麓にある。

陵がある場所は、現在の地図で確認すると、畝傍山の北東部の神武天皇陵の北側である。

<2> 安寧天皇

師木津日子玉手見命は、片塩の浮穴に宮殿を造って天下を治め、安寧(あんねい)天皇と名乗った。宮殿跡(大和高田市片塩)には、今は石園座多久虫玉神社(いわそのにいますたくむしたまじんじゃ)がある。この神社の創建時期は不詳とされている。

河俣毘売の兄である県主の殿延(はえ)の娘●阿久斗比売(あくどひめ)を妻とした。平たく言えば、母方の従妹である。生まれた第一子は、●常根津日子伊呂泥命(とこねつひこいろねのみこと)、第二子は●大倭比古鉏友命(おおやまとひこすきとものみこと)、第三子は●師木津日子命(しきつひこのみこと)。第二子の大倭比古鉏友命がのちに天下を治めた。

第三子の師木津日子命には二人の子どもがいた。第一子は伊賀の須知の稲置(いなぎ)、那婆理の稲置、三野の稲置の祖先。第二子は●知知都美命(ちちつみのみこと)、淡路の御井に宮殿を造り、二人の姫がいた。姉は●蠅伊呂泥(はえいろね)・またの名を意富夜麻登久邇阿礼比売命(おおやまとくにあれひめのみこと)、妹は●蠅伊呂杼(はえいろど)と言った。

「安寧天皇の陵は、畝火山の陰処(ほと)にあたる所にある」と書かれている。地図上で確認すると、橿原市吉田にあり、畝傍山の南西の麓にある。正式な呼称は「安寧天皇 畝傍山西南御陰井上陵(あんねいてんのう うねびやまのひつじさるみほどのいのえのみささぎ)」と言う。

陵から数分離れた所に「御陰井(みほどのい)」という井戸がある。

「畝火山の陰処(ほと)にあたる所」という記述が気になって調べてみた。この時代には、女性の体をイメージした地形に「陰処(ほと)」という言葉が冠することが多かったことから、古事記原文でもこのような表現がされたのではないかという解説情報を得た。

<3> 懿徳(いとく)天皇

大倭比古鉏友命(おおやまとひこすきとものみこと)が懿徳(いとく)天皇と名乗って、軽の境岡に宮殿を建て、国を治めた。軽の境岡は、現在の地図だと橿原市白檀町で、近鉄岡寺駅の西側になる。

●賦登麻和訶比売命(ふとまわかひめのみこと)別名飯日比売命(いびひめのみこと)を妻として、●御真津日子訶恵志泥命(みまつひこかえしねのみこと)と●多芸志比古命(たぎしひこのみこ

と)が生まれた。第一子の御真津日子訶恵志泥命が、のちに天下を治めた。弟の多芸志比古命は、和泉の國の古称である血沼(ちぬ)の別(わけ)、多遲麻(たじま)の竹の別、葦井の稻置の祖先である。この天皇の陵は、畝火山の真名子谷の上にある。

#### <4> 孝昭天皇

御真津日子訶恵志泥命は、葛城の掖上(わきのかみ)に宮殿を造り、孝昭天皇となり國を治めた。尾張の連の祖先である●奥津余曾(おくつよそ)の妹●余曾多本毘売命(よそたほびめのみこと)を妻として、第一子は●天押帯日子命(あめおしたらしひこのみこと)、第二子は●大倭帯日子國押人命。(おおやまとたらしひこくにおしびとのみこと)。

弟の大倭帯日子國押人命がのちに天下を治めた。兄の天押帯日子命は、春日の臣・大宅の臣・粟田の臣・小野の臣・柿本の臣・壺比葦(いちひい)の臣・大坂の臣・阿那の臣・多紀の臣・羽粟の臣・知多の臣・牟邪(むさ)の臣・都怒(つぬ)山の臣・伊勢の飯高の君・壺師の君・近淡海(ちかつおうみ)の国造の祖先である。

この天皇の陵は、掖上の博多の山の上にある。現在の地図で確かめると、近鉄御所駅の南側の葛城川の畔にある海拔120mほどの小さな突起である。

#### <5> 孝安天皇

大倭帯日子國押人命は、葛城の室(むろ)に秋津島の宮を造って、孝安天皇と名乗り國を治めた。姪にあたる●忍鹿比売命(おしかひめのみこと)を妻として、二人の子どもがいた。第一子は●大吉備諸進命(おおきびもろすすみのみこと)で、第二子は●大倭根子日子賦斗邇命(おおやまとねこひこふとにのみこと)。大倭根子日子賦斗邇命がのちに天下を治めた。

この天皇の陵は、玉手の岡の上にある。

#### <6> 孝靈天皇

大倭根子日子賦斗邇命は、黒田に盧戸(いおど)の宮を造って、天下を治めた。宮殿があった場所は、近鉄田原本線の黒田駅の西方で、現在は法楽寺が建っている。駅の南方にある孝靈神社は、元は法楽寺の鎮守社だったが、明治時代に遷座して黒田村の鎮守社となった。主祭神は大倭根子日子賦斗邇命となっている。

この天皇は、十市(とおち)の県主の祖先である●大目の娘●細比売命(くわしひめのみこと)を妻として●大倭根子日子國玖琉命(おおやまとねこひこくにくるのみこと)を生み、春日の●千千速真若比売(ちぢはやまわかひめ)を妻として●千千速比売命(ちぢはやひめのみこと)を生み、●意富夜麻登玖邇阿礼比売命(おおやまとくにあれひめのみこと)を妻として●夜麻登登母母曾毘売命(やまととももそびめのみこと)と●日子刺肩別命(ひこさしかたわけのみこと)と●日子伊佐佐勢理毘古命(ひこいささせりびこのみこと)別名大吉備津日子命(おおきびつひこのみこと)と●倭飛羽矢若屋比売(やまととびはやわかやひめ)を生んだ。

また、蠅伊呂杼(はえいろど:安寧天皇の孫)を妻として●日子寤間命(ひこさめまのみこと)と●若日子建吉備津日子命(わかひこたけきびつひこのみこと)を生み、御子の数は総勢八柱になった。大倭根子日子國玖琉命がのちに天下を治めた。大吉備津日子命と若日子建吉備津日子命とは力を合わせて針間(はりま:播磨)の氷の河(ひのかわ)の河原に御神酒を供えて祈願を行い、針間國を足場にして吉備に攻め入り、平定した。孝靈天皇の陵は、片岡の馬坂の上にある。

#### <7> 孝元天皇

大倭根子日子國玖琉命は、軽(かる)に堺原の宮を造り、孝元天皇と名乗って天下を治めた。穂積の臣などの祖先である●内色許男命(うつしこをのみこと)の妹●内色許売命(うつしこめのみこと)を妻として●大毘古神(おおびこのかみ)・●少名日子建猪心命(すくなひこたけいごころの

みこと)・●若倭根子日子大毘毘命(おおやまとねこひこおおびびのみこと)を生んだ。  
内色許男命(うつしこをのみこと)の娘●伊迦賀色許売命(いかがしこめのみこと)を妻として●比古布都押之信命(ひこふつおしのまことのみこと)を生み、さらに

●河内の青玉(あおたま)の娘●波邇夜須毘売(はにやすびめ)を妻として●建波邇夜須毘古命(たけはにやすびこのみこと)を生んだ。この天皇の御子は五柱になった。

この五柱のうち、若倭根子日子大毘毘命がのちに天下を治めた。

兄の大毘古神の子●建沼河別命(たけぬなかわわけのみこと)は阿部の臣などの祖先である。

次の子●比古伊那許志別命(ひこいなこしわけのみこと)は膳(かしわで)の臣の祖先。

前述の比古布都押之信命は、尾張の連などの祖先である●意富那毘(おおなび)の妹●葛城高千那毘売(かづらぎのたかちなびめ)を妻として●味師内宿禰(うましうちのすくね)を生んだ。味師内宿禰は山城の内(うち)の臣の祖先である。

比古布都押之信命はさらに、木の国造の祖先である●宇豆比古(うずひこ)の妹●山下影日売(やましたかげひめ)を妻として●建内宿禰(たけしうちのすくね)を生んだ。

建内宿禰(たけしうちのすくね)には、男七人・女二人の計九人の御子がいた。

建内宿禰の御子たち	その役割・素性
波多八代宿禰(はたのやしらのすくね)	波多・林・波美(はみ)・星川・淡海の臣、長谷部の君の祖先
許勢小柄宿禰(こせのをからのすくね)	許勢・雀部(さざきべ)・軽部の臣の祖先
蘇賀石河宿禰(そがのいしかわのすくね)	蘇賀・川辺(かわのべ)・田中・高向(たかむこ)・小治田(おわりだ)・桜井・岸田の臣の祖先
平羣都久宿禰(へぐりのつくのすくね)	平羣(へぐり)・佐和良の臣・馬御櫛(うまみくい)の連の祖先
木角宿禰(きのつめのすくね)	木・都奴・坂本の臣の祖先
久米能摩伊刀比売(くめのまいとひめ)	
怒能伊呂比売(ぬのいろひめ)	
葛城の長江の曾都毘古(そつびこ)	玉手・的(いくわ)・生江・阿芸那の臣の祖先
若子宿禰(わかごのすくね)	江野間の臣の祖先

この天皇の陵は、剣池(つるぎのいけ)の中岡(なかのおか)の上にある。

## <8> 開化天皇

若倭根子日子大毘毘命は、春日の伊弉河(いざかわ)に宮殿を造り、開化天皇と名乗って國を治めた。旦波(たにわ)の大県主である●由碁理(ゆごり)の娘●竹野比売を妻として●比古由牟須美命(ひこゆむすみのみこと)を生んだ。旦波は、のちの丹波である。

また、継母である伊迦賀色許売命(いかがしこめのみこと)を妻として●御真木入日子印恵命(みまきいりひこいにえのみこと)と●御真津比売命(みまつひめのみこと)を生んだ。

丸邇(わに)の臣の祖先である●日子國意祁都命(ひこくにかけのみこと)の妹●意祁都比売命(おかけひめのみこと)を妻として、●日子坐王(ひこいますのみこ)を生んだ。

さらに、葛城の●垂見宿禰(たるみのすくね)の娘●鷓比売(わしひめ)を妻として●建豊波豆羅和氣王(たけとよはづらわけのみこ)を生んだ。この天皇の御子はあわせて五柱。

御真木入日子印恵命が、のちに天下を治めた。

兄の比古由牟須美命の子は、●大筒木垂根王(おおつつきたりねのみこ)と●讃岐垂根王(さぬぎたりねのみこ)の二人で、この二人の王(みこ)に五人の娘がいた。

日子坐王(ひこいますのみこ)が●荏名津比売(えなつひめ)別名苺幡戸弁(かりはたとべ)を妻と

して●大俣王(おおまたのみこ)と●小俣王(をまたのみこ)と●志夫美宿禰(しぶみのすくね)の三柱が生まれた。

また、春日の●建国勝戸売(たけくにかつとめ)の娘●沙本之大閻見戸売(さほのおおくらみとめ)を妻として●沙本毘古王(さほびこのみこ)・●袁邪本王(をさほのみこ)・●沙本毘売命(さほびめのみこと)・●室毘古王(むろびこのみこ)を生んだ。沙本毘売命(さほびめのみこと)は別名を佐波遅比売(さはぢひめ)と言い、のちに●伊久米王(いくめのみこと)つまり垂仁天皇の後になった。近淡海(ちかつおうみ)の御上の祝(みかみのほふり)である●天之御影神(あめのみかげのかみ)の娘●息長水依比売(おきながみずよりひめ)を妻として、丹波(たにわ)の●比古多多須美知能宇斯王(ひこたたすみちのうしのみこ)・●水穂之真若王(みずほのまわかのみこ)・●神大根王(かむおおねのみこ)別名八瓜入日子王(やつりいりひこのみこ)・●水穂五百依比売(みずほのいおよりひめ)・●御井津比売(みいつひめ)の五柱が生まれた。

また、母の妹である意祁都比売命(をけつひめ)を妻として、山城の●大筒木真若王(おおつつきまわかのみこ)・●比古意須王(ひこおすのみこ)・●伊理泥王(いりねのみこ)を生んだ。

日子坐王(ひこいますのみこ)の御子は、総計15柱いた。

一番年上の大俣王の子は●曙立王(あけたつのみこ)と●菟上王(うなかみのみこ)。

曙立王は、伊勢の品遅(ほむじ)部の君・伊勢の佐那の造の祖先。菟上王は、比売陀の君の祖先。

次の小俣王は当麻(とうま)の勾(まがり)の君の祖先。次の志夫美宿禰は、佐佐の君の祖先。

次の沙本毘古王は、日下部の連・甲斐の国造の祖先。次の袁邪本王は、葛野(かづの)の別の祖先。

近淡海(ちかつおうみ)の蚊野の別の祖先。次の室毘古王は若狭の耳の別の祖先。

比古多多須美知能宇斯王(またの名をみちのうしの王)が丹波(たにわ)の河上の●摩須郎女(ますのいらつめ)を妻として、●比婆須比売命(ひばすひめのみこと)・●真砥野比売(まどのひめのみこと)・●弟比売命(おとひめのみこと)・●朝廷別王(みかどわけのみこ)の四柱を生んだ。

朝廷別王は、三川の穂の別の祖先である。

比古多多須美知能宇斯王の弟である水穂之真若王は、近淡海(ちかつおうみ)の安の直の祖先。

神大根王は、三野の国造・本巢の国造・長幡部の連の祖先。

山城の大筒木真若王は、弟である伊理泥王の娘●丹波の阿治佐波毘売(あじさわびめ)を妻として、●迦邇米雷王(かにめいかづちのみこ)を生んだ。

迦邇米雷王が、丹波の遠津の臣の娘●高材比売(たかきひめ)を妻として●息長宿禰王(おきながのすくねのみこ)を生んだ。

息長宿禰王が、葛城の●高額比売(たかぬかひめ)を妻として●息長帯比売命(おきながたらしひめのみこと)・●虚空津比売命(そらつひめのみこと)・●息長日子王(おきながひこのみこ)を生んだ。息長日子王は、吉備の品遅(ほむぢ)の君・針間の阿宗(あそ)の君の祖先となった。

息長宿禰王が、河俣の●稻依毘売(いなよりびめ)を妻として●大多牟坂王(おおたむさかのみこ)を生んだ。大多牟坂王は、多遅摩(たじま)の国造の祖先である。

天皇の最後の御子だった建豊波豆羅和氣王は、道守(ちもり)の臣・忍海(おしぬうみ)の造・御名部の造・稻葉の忍海部・丹波の竹野の別・依網(よさの)の阿毘古などの祖先である。これが「我孫(あびこ)」という姓の始まりになった。

この天皇の陵は、伊呀河(いざかわ)の坂の上にある。

#### <9> 崇神(すじん)天皇

御真木入日子印恵命は、師木に水垣の宮を造って、崇神天皇と名乗って國を治めた。

この天皇が、木の國の国造●荒河刀弁(あらかわとべ)の娘●遠津年魚目目微比売(とおつのあ

ゆめめくわしひめ)を妻として●豊木入日子命(とよきいりひこのみこと)・●豊鉏入日売命(とよすきいりひめのみこと)を生んだ。

また、尾張の連の祖先●意富阿麻比売(おおあまひめ)を妻として●大入杵命(おおいりきのみこと)・●八坂之入日子命(やさかのいりひこのみこと)・●沼名木之入日売命(ぬなきのいりひめのみこと)・●十市之入日売命(とをちのいりひめのみこと)の四柱を生んだ。

また、●大毘古命(おおびこのみこと)の娘●御真津比売命(みまつひめのみこと)を妻として●伊玖米入日子伊沙知命(いくめいりひこいさちのみこと)・●伊邪能真若命(いざのまわかのみこと)・●國片比売命(くにかたひめのみこと)・●千千都久和比売命(ちぢつくやまとひめのみこと)・●伊賀比売命(いがひめのみこと)・●倭日子命(やまとひこのみこと)の六柱の御子を生んだ。

この天皇の御子は、総計十二柱になり、その内の伊玖米入日子伊沙知命がのちに、垂仁天皇と名乗って國を治めた。(妻となった御真津比売命は開化天皇の娘であり、少々疑問が残ったが・・・)

豊木入日子命は、上毛野(かみつけの)の君・下毛野(しもつけの)の君などの祖先である。

妹の豊鉏入日売命は、伊勢の大神宮に仕えた。大入杵命は、能登の臣の祖先である。

また、倭日子命の時に、陵に人を入れて垣とする「人垣」が始まった。

以上

\*補足資料-1:天皇の宮殿と陵の場所

\*補足情報-2:神武天皇以降の系図(10代天皇まで)

\*参考文献:古事記原文 [https://www.seisaku.bz/kojiki\\_index.html](https://www.seisaku.bz/kojiki_index.html)

## 天皇の宮殿と陵

天皇	宮殿の場所		陵(みささぎ)の場所	
	古事記上の記述	現代の地図で見ると	古事記上の記述	現代の地図で見ると
神武	畝火の白禰原(しらかしはら)	畝傍山の東南の橿原神宮	畝火山の北	畝傍山の北東麓
綏靖	葛城の高岡高岡宮	葛城山の東麓	衝田の岡	橿原市四条の塚山古墳 神武天皇陵の北側
安寧	片塩の浮穴	大和高田の石園多久虫玉神社	畝火山陰処	畝傍山の南西麓
懿徳	軽の境岡	橿原市白檀町	畝火山真名子谷の上	畝傍山南西麓の西池尻町上
孝昭	葛城の掖上	御所実業高校の敷地内	掖上の博多の山の上	御所市御室の葛城川西岸
孝安	葛城の室	御所市室	玉手の岡の上	和歌山線玉手駅の南側 国見山の北麓
孝霊	黒田盧戸(いおど)の宮	近鉄田原本線黒田駅付近 宮跡地に法楽寺が建った	片岡の馬坂の上	王寺駅の南側 大和川の東岸台地の上
孝元	軽(かる)の堺原の宮	橿原市大軽 近鉄吉野線岡寺駅近く	剣池の中岡の上	橿原市石川町中山塚古墳 橿原神宮前駅の東側
開化	春日の伊弉河	奈良市本子守町率川神社	春日の伊弉河	率川神社の北西部
崇神	師木の水垣の宮	三輪山南西麓 磯城(しき)瑞籬宮		天理市柳本の行燈山古墳 (前方後円墳)

